



横田大輔《Untitled》, 2021, UV Inkjet Print (StareReap 2.5 プリント), 100×80cm

Daisuke Yokota

# Alluvion

会場：RICOH ART GALLERY

会期：2021年7月10日（土）～ 2021年8月7日（土）

時間：12：00～19：00 ※最終日18：00 終了

休廊日：日・月・祝

※ 新型コロナウイルス感染防止に伴う政府・東京都の方針により、営業時間・会期は前後する可能性があります。

この度、RICOH ART GALLERY では、横田大輔個展「Alluvion」を開催いたします。横田大輔の表現は、従来の写真というメディアの在り方を超えて、独自に進化し続けてきました。それは、2010年「第2回写真1\_WALL展」グランプリ、2016年には国際的な写真賞「Foam Paul Huf Award」の受賞、2018年のテートモダンでのグループ展「SHAPE OF LIGHT」参加、さらに第45回（2019年度）「木村伊兵衛写真賞」など、国内外で高い評価を得ています。本展では、横田の幅広い表現のひとつ「Color Photographs」と、リコー発のアートプロジェクト「StareReap」が共創した新作を含む18点を発表し、新しいメディアによる表現の可能性を提示します。

これまで横田は作家としての活動のなかで、記憶と現在、イメージと現実の関係性をテーマにしています。一方で‘写真の物質性’にも着目します。なかでも「Color Photographs」は、フィルムに直接光学的、化学的な変化を起こし、さまざまな色の被膜がよれたり重なり合ったりする状態をスキャンしたシリーズです。

記録する媒体であったはずのフィルムが記録される側に立つこの作品は、フィルムの独特のうねりや複雑な色彩の変化によって、観る者にこれまで味わったことのない触感を想起させます。StareReapのプリンティングディレクターと作家は、フィルムが積層した状態や、色と色の重なり具合、微細に存在する素材感の違いを丹念に分析し、フラットな作品に立体性を与えました。

しかしそれは、元の形状の再現ではありませんでした。StareReapとのコラボレーションによってあらたな変容を遂げた作品について、横田自身は次のように語っています。

厚みを出していくとき、半立体的な状態を「再現する」、  
それは元のモチーフを再現するというイメージがあったのですが、  
実際は画像を元にまったく厚みのない平面な状態から形を起こしていくものでした。  
シュミレーションとして高さを加えていくことに面白さを感じました。  
それは再現性を追及するものでなく、そこには正解がないのです。

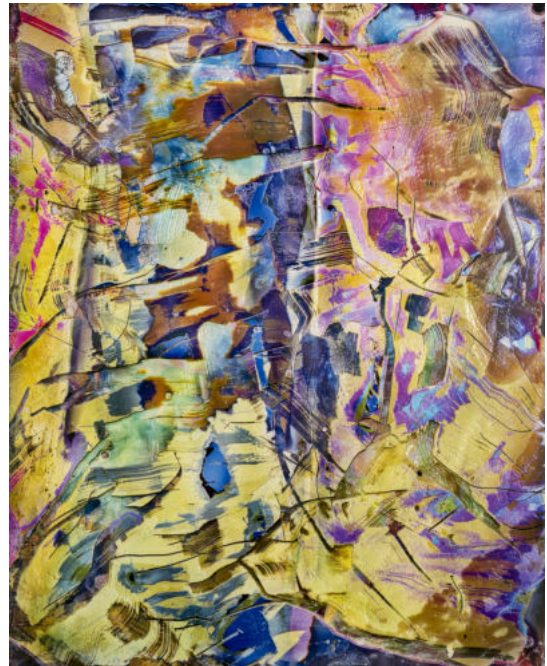
— 横田大輔

刹那的な存在であるフィルムはすでに失われています。あらたに形を与えられた本展の作品は、「再現」し「記録」する写真のあり方をはるかに超えたものなのです。これまでも横田は、写真というメディアがあまりにも完成された技術であることに違和感を覚え、そこからの脱却を図ることを制作のコンセプトにおいてきました。





横田大輔《Untitled》, 2021, UV Inkjet Print (StareReap 2.5 プリント), 100×80cm



横田大輔《Untitled》, 2021, UV Inkjet Print (StareReap 2.5 プリント), 45×36cm

これまでも自分の作品は、この完成された写真のシステムを壊す、  
限界を超えることにあって、  
でもそれはプリント前の工程しか干渉できなかったんです。  
また支持体である紙を破るとか、そういう物理的接触をできる場所に限られていたと思うんですね。  
フォトショップであっても、ある限られた枠のなかで操作で変えていだけ。  
StareReap はそこにダイレクトにインクという物質変換が行われていくことが決定的に違うんです。

— 横田大輔

2.5D プリンターによるインクの塗膜が何十層も集積されて実現する形は、まるでうつろう記憶やそこに保管されたイメージが、なんども反復され定着してくことを示しているかのようです。しかし、それは忠実に再現されるのではなく、物質的な変容を経ており、その過程のなかで本来のフィルムとは異なる価値を与えられ、観る者の想像力を刺激する作品としてあらたに存在するのです。

Alluvion (沖積層) といのは、古い地層のうえに  
最終氷期以降 (約 18,000 年前より新しい時代) に堆積した地層をさします。  
新しい技術によって、元の画像を変成させ、積み上げていくイメージでつけたタイトルです。

— 横田大輔

StareReap により作品は、フィルムの被膜性以上の存在感をもち、2.5D のあらたな表現として昇華されたともいえるでしょう。さらに進化した横田大輔の作品を堪能できる個展「Alluvion」を、RICOH ART GALLERY にてぜひご高覧いただけますよう心よりお願い申し上げます。

## —横田大輔ステートメント

デジタル化以降の写真は、撮影した画像をベースとして Photoshop などのアプリケーションにより修正や加工など二次的介入が当たり前になりました。かたやプリントは、速度や精密さなどの変化はあるものの基本的に再現性という枠を出ておらず、結果写真表現のあり方は印刷技術に依存する形として今もなお根本的な変化をもてずにいるのではないかと感じています。

StareReap 2.5 は、再現性を超えた多様なバリエーションを作り出すことができます。そのような複雑かつユニークな表現性をもつ印刷技術によって写真の新しい展開が可能になるのではないのでしょうか。

銀塩乳剤がインクに置き換わる際にどのような変性作用を及ぼすのか、非常に興味深く関わらせていただいています。



photo:Kohey Kanno

横田大輔 Daisuke Yokota

1983 年、埼玉県生まれ。日本写真芸術専門学校卒業。  
2008 年「キヤノン写真新世紀」佳作（大森克己選）、2010 年「第 2 回写真 1\_WALL 展」グランプリを受賞。2016 年、Foam Paul Huf Award、第 45 回（2019 年度）「木村伊兵衛写真賞」を受賞。  
主な個展・グループ展に、「Site / Cloud」Foam 写真美術館（オランダ、2014）、「Matter」Foam 写真美術館（オランダ、2017）、「SHAPE OF LIGHT」Tate Modern（イギリス、2018）、「Painting the Night」Centre Pompidou-Metz（フランス、2018-2019）、「Photographs」rin art association（日本、2021）など。  
これまでに『垂乳根』（Session Press、2015）や『VERTIGO』（Newfave、2014）、『MATTER/BURN OUT』（artbeat Publisher、2016）など数多くの写真集を国内外で発表している。

## 同時開催

横田大輔 個展「Sludge」

会期 | 2021 年 6 月 26 日（土）～7 月 16 日（金）  
会場 | 銀座 蔦屋書店アートウォール・ギャラリー  
入場 | 無料  
主催 | 銀座 蔦屋書店  
お問い合わせ | 03 - 3575 - 7755（営業時間内） / info.ginza@ccc.co.jp  
URL | <https://store.tsite.jp/ginza/blog/art/20610-1650060614.html>  
※ 営業時間は上記 Web サイトをご確認ください。  
※ 会期は変更になる場合がございます。

2019 年度、第 45 回木村伊兵衛写真賞を受賞して以来、注目される横田大輔。ここ数カ月間に集中して横田の個展が開催されてきました。最後を締めくくることがとなる RICOH ART GALLERY の個展「Alluvion」とほぼ同時開催されるのが、銀座 蔦屋書店アートウォール・ギャラリーの個展「Sludge」です。併せてご覧ください。



RICOH ART GALLERY



Facebook



Instagram



Reservation

## RICOH ART GALLERY

リコーアートギャラリー

場所：〒104-0061 東京都中央区銀座 5-7-2  
三愛ドリームセンター 8F・9F

TEL：03-3289-1521  
お問い合わせ：zjc\_ricoh-art-gallery@jp.ricoh.com